

自分の気持ちを自由に表現



ジュニア上毛賞文学賞
俳句部門・ふた葉の部で最優秀賞
齊藤 優維さん 10歳
南橋町

ジュニア上毛賞文学賞俳句部門・ふた葉の部(小4以下)で最優秀賞に輝いた。これは、上毛新聞社が主催する上毛ジュニア俳壇に昨年投稿された俳句の中から、特に優れた作品を表彰するもの。

「日本中が大変な時期なので、素直に喜んでいいのか戸惑っています。頑張ってきた成果が報われたことは本当にうれしいです」

好きな作品は「お父さんの座椅子大きい冬の朝」。朝のひとときにパッと浮かんだ素直な気持ちをしたためた。

「俳句と出会ったのは小1のとき。自分の気持ちや身の回りのことを短く、自由に表現できる俳句にすぐに夢中になりました。何事も経験してみる

ことで言葉の引き出しも増えてきて、今では表現する楽しみが増えた感じ。良い句が浮かんだら、すぐに書き留めて何度も練り直します」

現在、桃川小の5年。得意科目は体育で、運動センスは先生が太鼓判を押すほど。友達と一緒に遊んだり、絵を描いたりすることが大好きだ。

「これからも俳句を続けていきたいです。ほかにも、詩や作文など言葉で表現できるのであれば、どんどん挑戦したいと思っています。もっと勉強して新聞なども作ってみたい」と元氣いっぱい笑顔で話す齊藤さん。

今後と言葉の一つ一つを大切に、その素晴らしい感性で、自分の気持ちを表現し続けてほしい。

見たい

知りたい

伝え隊

今回のテーマ
「前橋
シティマラソン」



平成11年、グリーンドーム前橋で世界室内陸上競技選手権大会前橋大会が開催されました。その翌年、同大会を記念して初めて開催されたのが前橋シティマラソンです。すっかり春の風物詩として定着したこの大会。本年度は東日本大震災の影響を考慮し大会は中止になりましたが、毎年6,000人を越すランナーが前橋路を駆け抜けます。

前橋シティマラソンの魅力は何といっても走りやすく景色の良いコースです。 HALFマラソン・10キ・3キと、年齢や体力に合わせて選べる3コースを設定。どのコースも目の前に広がる赤城山やコースのすぐ横を流れる利根川のせせらぎが、走る楽しみを倍増させてくれます。

さまざまなゲストランナーも魅力の一つ。昨年は、ニューイヤーマラソンなどの活躍が記憶に新しい、本市出身のラン

ナー・小野裕幸さんが故郷に凱旋。走ることの喜びを伝えてくれました。また、海外の友好都市からは招待選手が参加し、大会を盛り上げてくれます。



ほかにも、無料で配られる ton ton 汁や無料マッサージコーナー、豪華商品が当たる大抽選会などがあり、記録を狙う人から走りを楽しむ人まで、参加者全員が楽しめること間違いなしです。多くの人たちから愛される前橋シティマラソン。これからも利根川沿いを走る市民ランナーが、前橋に春の訪れを教えてください。

みんなの声

沿道の声援が最高の力に。走り出してからすぐに足がつって棄権したなんてこともありました。

(岡部好弘さん・千代田町二丁目) 最初はボランティアとして、その後はランナーとして参加。上毛大橋を上りきった時の爽快感が忘れられません。

(宮川眞理子さん・朝日町四丁目) 昨年、職場の仲間9人と初めて参加。走りながら見える利根川が印象的でした。ぜひ、また参加したいです。

(蛭田美恵子さん・東片貝町)

このコーナーでは皆さんからのエピソードをお待ちしています。次回のテーマは「ハニ。4月25日(月)までに、住所・氏名・電話番号を記入し、市役所市政発信課「見たい知りたい伝え隊」係へハガキかEメール (shiseihasan@city.maebashi.gunma.jp) へ。

クローズアップ

道の駅「赤城の恵」がオープン

3月27日に荻窪公園が道の駅「赤城の恵」としてオープン。ton ton 汁、綿菓子^{わたあめ}の無料配布や農畜産物などの販売が行われ、訪れた人たちは新鮮な地元野菜を購入していました。また、東日本大震災復興支援の募金も行われました。



美しい心に感銘を受ける

4月3日、市民文化会館の再オープンを記念して「泥かぶら」の公演が行われました。昭和27年の初演以来、各地で上演されているこの演劇に大勢の人が来場。表情豊かで迫力ある演技と主人公・泥かぶらの美しい心に会場中から惜しみない拍手が送られました。



サクラ舞う季節

前橋でサクラが開花しました。赤城南面千本桜や大胡ぐりーんふらわー牧場では、毎年大勢の人がサクラを見に訪れます。この時期にしかできない幸せな体験を求めて、ぜひお出掛けください。